

# 都市再生整備計画(第2回変更)

かくだこうりゅうきよてんちく  
角田交流拠点地区

みやぎけん かくだし  
宮城県 角田市

平成28年12月7日

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

|       |                     |      |                     |     |          |    |        |
|-------|---------------------|------|---------------------|-----|----------|----|--------|
| 都道府県名 | 宮城県                 | 市町村名 | 角田市                 | 地区名 | 角田交流拠点地区 | 面積 | 784 ha |
| 計画期間  | 平成 25 年度 ~ 平成 29 年度 | 交付期間 | 平成 25 年度 ~ 平成 29 年度 |     |          |    |        |

### 目標

- 大目標 「人と地域が輝く 田園交流都市 かくだ」の都市像の実現を目指す。
- 目標1 訪れる人々が安らぎと親しみを持てるまちづくりを図る。(交流・連携)
- 目標2 市民誰もが住む喜びと誇りを抱き、魅力あふれるまちづくりを図る。(移住・定住)
- 目標3 探究心を満たし、創造力豊かな輝く人材を育むまちづくりを図る。(創造・探究)

### 目標設定の根拠

#### まちづくりの経緯及び現況

角田市は宮城県南部に位置し、面積147.58km<sup>2</sup>、人口約3万人の都市である。角田市は、東北有数の大河・阿武隈川や、環境保全地域の指定を受けている深山や斗蔵山などの恵まれた自然環境、また、国指定重要文化財の高蔵寺・旧佐藤家住宅などの貴重な歴史資源を有するとともに、安全でおいしい豊富な農畜産物、角田中央公園を中心に立地する多彩なスポーツ・レクリエーション施設など、様々な地域資源を数多く有している。また、角田山元トンネルの開通にあわせて一般県道角田山下線が整備されたことにより常磐自動車道山元インターへのアクセス性が向上している。

しかし、平成22年度の国勢調査の結果では、角田市の人口総数は、31,336人となり、平成17年度調査に比較して1,863人の減となっている。そのうえ、65歳以上人口割合が27.2%、15歳未満人口割合が12.2%となっており、人口減少と併せて少子高齢化が進んでいる。また、施設面では、阿武隈川西部(隈西)は、文化・教養施設があり、人々が集う素地があるが、川東部(隈東)には、地域交流を促進させる施設が希薄である。さらに、様々な地域資源を有しているが、それらは繋がりが持っていない現状である。

「角田の5つの“め”」をキーワードに、角田市の魅力あるブランドづくりを進めている。「角田の5つの“め”」とは、「食ブランド」をリードする食材「米(こめ)・豆(まめ)・梅(うめ)」。「地域イメージ」をリードする宇宙とスポーツが「宇宙への夢(ゆめ)、未来への夢」。歴史的魅力を象徴する「牟宇姫(むうひめ)」である。

角田市は宮城県内有数の米どころである。「いのちを守る農業」を基本理念とした環境保全型農業を展開しており、角田市農業の代表的な作物が「米」となっている。また、「豆・梅」については、毎年9月には、秘伝豆を使用した「角田ずんだまつり」と毎年6月に、「うめ～梅まつり」などを開催し、交流人口の拡大を図るとともに、角田市の食のブランドの消費拡大を試みている。

「宇宙への夢、未来への夢」については、角田市の北部にJAXA角田宇宙センターの施設があり、角田市は、「宇宙を拓くまち」としてまちづくりを進めてきた。中心部の台山公園に純国産型ロケット「H-IIロケット」の実物大模型とその付随施設のコスモハウスを整備しており、各種人工衛星の模型やロケットエンジンの実物を展示している。宇宙科学を身近に感じられる地域として、5月にはこの台山公園を会場に「かくだ宇宙まつり」を開催している。また、角田中央公園を中心としたスポーツ・レクリエーション施設は、陸上競技場、総合体育館、野球場、温水プール及び市民ゴルフ場などを集中的に整備し、市内外からの利用者の体力向上及びスポーツ技術向上の場としている。

「牟宇姫」は、約400年前に角田三代館主石川宗敬に與入れた伊達政宗の次女である。牟宇姫が與入れの際に持参したといわれる雛人形と雛道具が角田市郷土資料館に保存されており、毎年2月に「かくだ牟宇姫ひなまつり」を開催し、交流人口の拡大を図っている。

#### 課題

- ・様々な地域資源を有機的な構造とするために、情報発信施設の整備が必要とされている。
- ・食のブランドについては、上記のとおり、各種のイベントを開催し、角田ブランドを浸透させるよう努力している状況にある。しかしながら、新たな商品開発には遅れが目立っていることから、農作物を原料とした開発加工食品によるコミュニティビジネス化も求められている。また、イベント開催は散発で、物産等を販売する店舗も散在する状況にある。そのため、角田ブランドを継続的に提供するための核となる施設の整備が求められる。
- ・角田中央公園を中心に立地するスポーツ・レクリエーション施設には、各種スポーツ大会が開催され、市内外からの多くの利用者が訪れる。しかし、多くの利用者があるにもかかわらず、現在、角田中央公園付近には、コンビニエンスストアを含め、食事の提供を行える場所がない状況であり、利用者にとっては不便な場所となっている。
- ・角田中央公園付近は、一般県道角田山下線と主要地方道角田山元線が交わる場所であり、常磐自動車道山元インターに通じる角田山元トンネルが開通したことにより、交通量が飛躍的に増加している。広域的な観点からも、道路ユーザーが休憩する場所が必要となっている。
- ・角田市の市民交流・文化交流の中心となっていた市民センターは、東日本大震災により被災した。特に、大ホールについては、復旧困難なほどに大破し、建替えを余儀なくされている状況である。市民交流・文化交流は、活力ある地域を目指すためには不可欠であり、中心的施設の整備は喫緊の課題である。
- ・角田市のシンボルとなっているのは、「ロケット」である。台山公園には、「H-IIロケット」実物大模型とその付随施設のコスモハウスには各種人工衛星の模型やロケットエンジンの実物が展示されている。展示物に触れることによって、子ども達が持った宇宙への求知心を満たすための学習の場づくりが今後は必要とされている。
- ・阿武隈川緑地にある「あぶくまパークゴルフ場」は、宮城県南部で、唯一のパークゴルフ場である。コースバリエーションを増やしてほしいという利用者の声に応えると同時にシルバー世代の増加に伴う市内外の競技者の増加を視野に入れ、コース整備を図っていく必要がある。
- ・人口減少と少子高齢化が進む現状から、公共交通を中心としたコンパクトな住みよいまちづくりを推進する。そのため、現状の課題を市民アンケートなどにより調査し、有効な方策を検討する必要がある。
- ・本計画により、施設及び動線が整備されることになる。これらの施設を誘導し、回遊性を高めるため、シンボル性を持たせたデザインの案内・誘導サインを計画的に整備する。

#### 将来ビジョン(中長期)

- ・「角田市第5次長期総合計画」において目標とする都市像を「人と地域が輝く 田園交流都市 かくだ」と掲げ、重点プロジェクトとして「定住人口3万人の確保」、「交流人口100万人都市への挑戦」及び「戦略的産業振興」に取り組んでいる。
  - ・「角田市都市計画マスタープラン」において都市づくりの目標像として「自然環境と調和し誇りと活力を育む交流都市」と設定している。これにより、都市としてのゆとり・豊かさが熟成され、都市の歴史や文化を育んできた角田市の持つ魅力に、更なる新たな魅力が創造される都市の実現を図っていくこととしている。
- \*隈西は、「文化と教養」を、隈東は、「スポーツと食」を機軸とした交流や地域コミュニティの求心力を高め、更には東西の交流・連携により、市内外の交流を活性化、常態化させ、もって「定住人口3万人の確保」と「交流人口100万人都市への挑戦」の成就を目指すもの。

### 目標を定量化する指標

| 指 標          | 単 位 | 定 義  | 目標と指標及び目標値の関連性  | 従前値     |        | 目標値     |        |
|--------------|-----|--|---|---------|--------|---------|--------|
|              |     |  |   |         | 基準年度   |         | 目標年度   |
| 交流人口         | 人/年 | 市外入込交流人口と市内交流人口を合わせた人数                     | 様々な地域資源を活かし、「小さくともキラリと光るコンパクトなまちづくり」を進め、角田が持つ個性を内外にアピールするとともに、多くの人々を「おもてなしの心」により迎え入れることにより交流人口の拡大を目指す。長期総合計画上では、平成32年度に100万人を目標としている。             | 660,000 | 平成23年度 | 800,000 | 平成29年度 |
| 定住人口         | 人   | 国勢調査を基準とした推計人口と政策誘導人口を合わせた人数               | 角田市のもつ豊富な地域資源を有効活用し、市民が暮らしの豊かさを実感でき、活力あふれる産業の育成、快適な生活環境づくりにより、ずっと住み続けたいくなるまちづくりを図る。長期総合計画上では、平成32年度に推定人口が29,500人と減少するが、政策により500人を誘導し、3万人を目標としている。 | 31,364  | 平成24年度 | 30,100  | 平成29年度 |
| 学習会・企画展の開催回数 | 回/年 | 新規に整備する「スペースタワー・コスモハウス学習棟」における学習会・企画展の開催回数 | 新規の企画展等を月1回程度開催し、探究心を満たし、想像力豊かな輝く人材を育むまちづくりを図る。   | 0       | 平成25年度 | 12      | 平成29年度 |

都市再生整備計画の整備方針等

| 計画区域の整備方針  | 方針に合致する主要な事業  |
|--|---|
| <p><b>整備方針1 賑わいの交流拠点づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>角田中央公園付近に「道の駅」として関連交流施設等を整備し、賑わいの交流拠点とする。</li> <li>「道の駅」に防災機能を付加し、広域的な防災拠点とする。</li> <li>アクセス道路を整備する。</li> <li>街なか商店街への誘導及び市内観光のための情報発信機能を備える。</li> <li>パークゴルフ場を整備し、競技者の要望に応えるとともに、市外から競技者を呼びこむ。</li> <li>案内・誘導サインを整備する。</li> <li>道の駅の設置・運営及び街なか交流拠点との連携を検討するワークショップを行う。</li> <li>角田市の食ブランドである農産物を販売する産直市場を設ける。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 基幹事業 道路(枝野青木1号線)</li> <li>■ 基幹事業 道路(枝野青木2号線(延伸線))</li> <li>■ 基幹事業 公園(阿武隈川緑地)</li> <li>■ 基幹事業 地域生活基盤施設(道の駅交流広場)</li> <li>■ 基幹事業 地域生活基盤施設(道の駅防災施設)</li> <li>■ 基幹事業 地域生活基盤施設(道の駅駐車場)</li> <li>■ 基幹事業 地域生活基盤施設(案内・誘導サイン整備)</li> <li>■ 基幹事業 高質空間形成施設(公衆トイレ)</li> <li>■ 基幹事業 高次都市施設(観光交流センター)</li> <li>◆ 提案事業 地域創造支援事業(県道右折レーン整備)</li> <li>◆ 提案事業 事業活用調査(事業効果分析調査)</li> <li>◆ 提案事業 まちづくり活動推進事業(賑わいづくりワークショップ)</li> <li>□ 関連事業 地域振興施設整備</li> <li>□ 関連事業 食料品・日用品販売所整備</li> </ul> |
| <p><b>整備方針2 住みよいまちづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交流拠点をつなぐためにアクセス道路・通路及び街なか交流広場を整備し、中心市街地の回遊性を高める。</li> <li>市民交流・文化交流の拠点である市民センター施設を整備する。</li> <li>コンパクトなまちづくりのために調査を行う。</li> <li>定住を促進するため、転入者等の住宅取得に対して支援を行う。</li> <li>人口減少により、空き家・空き地が増加しているため、管理不全な物件の実態を把握する。</li> <li>老朽化が進む市営住宅について、子育て世代や高齢者の暮らしやすさの観点から適正な維持管理と併せて新たな市営住宅の整備を進める。</li> </ul>                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 基幹事業 道路(立町横田町線)</li> <li>■ 基幹事業 地域生活基盤施設(街なか交流広場)</li> <li>■ 基幹事業 地域生活基盤施設(市民センター駐車スペース)</li> <li>■ 基幹事業 高質空間形成施設(市民センター通路)</li> <li>◆ 提案事業 事業活用調査(住みよいまちづくり調査)</li> <li>□ 関連事業 市民センター整備</li> <li>□ 関連事業 定住促進、角田・いらっしやいプラン(住宅取得補助)</li> <li>□ 関連事業 管理不全等空き家・空き地実態調査</li> <li>□ 関連事業 公営住宅長寿命化計画策定</li> </ul>  |
| <p><b>整備方針3 想像力を育むまちづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>角田市のイメージである「宇宙」を子ども達が知るために施設の充実を図る。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 提案事業 地域創造支援事業(スペースタワー・コスモハウス学習棟整備)</li> </ul>  |

その他

○角田の食と物産のブランド化に向けての『3つの基本目標』-角田の5つの“め”-

- 豊かな農畜産物や食文化による食の角田ブランドを確立し、推進することで食に関係する人の意欲と所得の向上を図る。
- 消費者に支持される商品づくりを支援し、地域外から人を呼び込むことで地域経済の活性化を図る。
- あらゆる地域資源を活用し、角田の魅力と知名度を向上させ、地域イメージによる新たな付加価値の創造を図る。

○事業終了後の市民等による継続的なまちづくり活動

- 市民により組織している行政経営推進委員会により事業評価を行い、また、来訪者アンケートを拠点施設となる道の駅をはじめ市内各施設において行う。事業評価及びアンケート結果を踏まえて、施設の拡張整備またはイベント等の開催を行い、交流の拠点の充実を目指す。

○角田中央公園一帯の防災拠点化について

- 角田中央公園に隣接する一般県道角田山下線は、角田山元トンネルを通り、太平洋沿岸部に通じる。東日本大震災の際には、被災者の避難及び自衛隊等の救助活動のための「命の道」としての役割を果たした。
- 角田中央公園自体も、東日本大震災の際には、他県消防隊の応援基地として総合体育館等が使用されたり、また、大規模山火事が発生した際には、自衛隊への発着場として多目的運動場が使用された実績がある。今後、道の駅整備において防災機能を付加することで、防災拠点として広域的な観点からも重要な位置付けとなると考えられる。
- 平成26年3月に修正している「角田市地域防災計画」において「道の駅」を今後、防災拠点としての整備を推進することとしている。

○角田市スポーツ交流館オープン

- 角田中央公園に隣接する「角田市農村環境改善センター」を用途変更し、平成26年4月から「角田市スポーツ交流館」をオープンする。スポーツを親しむ市民が集う場として、また、市内外からのスポーツ団体の活動を受け入れる場として、角田中央公園の施設と一体化し、スポーツ交流を推進する。

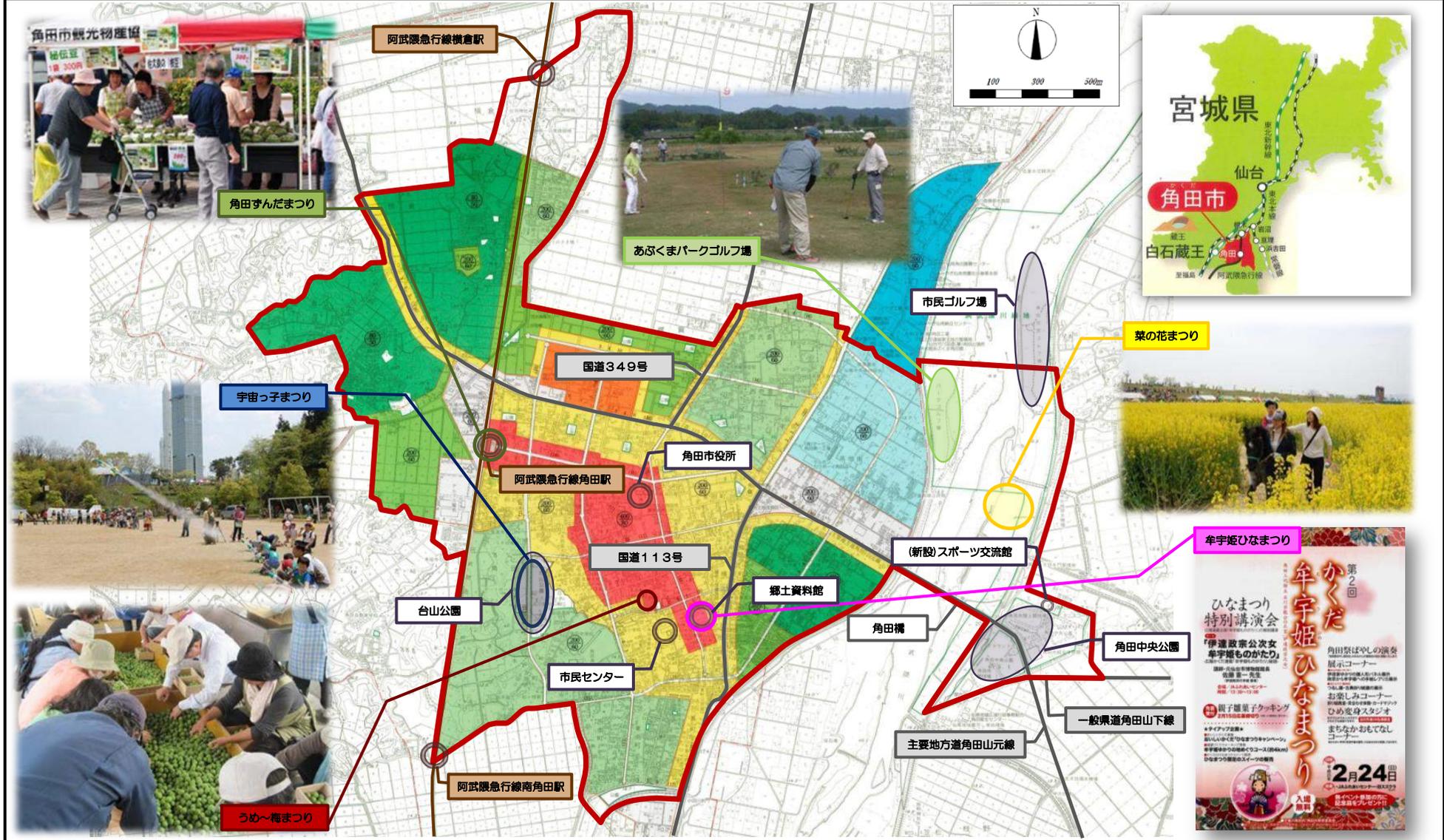
○「賑わいの交流拠点施設整備実施計画」の策定

- 平成28年3月に事業規模の縮小、施設の管理運営及び財政の見直しに対する意見や要望に対応するため、「賑わいの交流拠点施設整備実施計画」を策定している。



都市再生整備計画の区域

|                  |    |        |    |                    |
|------------------|----|--------|----|--------------------|
| 角田交流拠点地区(宮城県角田市) | 面積 | 784 ha | 区域 | 角田地区、横倉地区及び枝野地区の一部 |
|------------------|----|--------|----|--------------------|



## かくたこうりゅうきょくちく(みやぎけんかくたし)整備方針概要図

|           |  |               |              |     |         |          |   |         |          |
|-----------|--|---------------|--------------|-----|---------|----------|---|---------|----------|
| <b>目標</b> | 大目標 「人と地域が輝く 田園交流都市 かくた」の都市像の実現を目指す。       | <b>代表的な指標</b> | 交流人口         | 人/年 | 660,000 | (平成23年度) | → | 800,000 | (平成29年度) |
|           | 目標1 訪れる人々が安らぎと親しみを持てるまちづくりを図る。(交流・連携)      |               | 定住人口         | 人   | 31,364  | (平成24年度) | → | 30,100  | (平成29年度) |
|           | 目標2 市民誰もが住む喜びと誇りを抱き、魅力あふれるまちづくりを図る。(移住・定住) |               | 学習会・企画展の開催回数 | 回/年 | 0       | (平成25年度) | → | 12      | (平成29年度) |
|           | 目標3 探究心を満たし、創造力豊かな輝く人材を育むまちづくりを図る。(創造・探究)  |               |              |     |         |          |   |         |          |

